

海浜植物保護センター運営方針とビジョン

2016.2.17.内藤委員

【保護センターの目的】豊かな海辺の自然を市民共有の財産として保全し後世に残していく。

【運営方針】							
①多様な手法による普及啓発活動：不特定多数のあらゆる世代、関心レベルに応じ、適した手法で石狩浜の貴重性の訴求に努めるとともに保全意識の醸成を図る。							
②自然情報の受発信機能の強化：自然情報の収集に努めるとともに、市民団体や来訪者からの自然情報もすみやかに集約し、HP・展示室・印刷物で発信する。							
③環境教育機能の充実：センター拠点にした環境教育プログラムの拡充と円滑な受け入れ運営体制を構築する。							
④関係団体によるセンター利活用の促進・連携強化：石狩浜で活動に取り組む団体との情報共有を図り、利用者へ向けた一元的な情報発信を進める。また、自然体験活動団体によるセンターの利活用を推進する。							
⑤地元とのコミュニケーション強化：本町地区施設とのコミュニケーションを強化し、石狩本町自然歴史体験ゾーンづくりを進める。また、地元住民とのコミュニケーションを強化し、地元住民が気軽に足を運べる雰囲気づくり、活動の場づくりをすすめる。							

		事業名	FC事業との関係	事業の目的	事業内容	対象	3年後		10年後		
普及啓発活動	センターへの誘い	広報発信事業		センターへ足を運んでもらう	HP・情報誌の頻繁の更新発行・プログラムや事業のPR・マスコミとのリンク	あらゆる世代	HP100件/日 通信はまほうふう毎月	センター来館者数 100,000人/年			
		ニーズ把握事業			アンケート・聞き取り等	あらゆる世代					
	センター施設での訴求	展示室整備事業		石狩浜の貴重性の訴求・保全意識の醸成を第一に考えたレイアウトの考案・館内で自然情報の受発信が円滑に行える環境づくり・各観客団体が活動しやすい環境づくり・各客層が利用しやすい環境づくり	レイアウトの再考・館内入り口の再考・愛称募集・キャラクター再考・休憩スペースづくり	あらゆる世代				札幌圏の家族連れが必ず一回は行ってみたい自然体験スポットとなる。およびツアー会社を通じた「石狩自然歴史ツアー」の周遊ポイントとなり、本州および海外からの観光客がたくさん訪れる。	
		展示づくり事業		石狩浜の貴重性の訴求・保全意識の醸成・自然情報の受発信	石狩浜の貴重性を実感する展示⇒インパクトのある写真・ダイナミックな動画DVD、ひきつける展示解説	観光客・初心者	10,000人/年			自然愛好家が立ち寄りたくなる場所になっている。	
		自然情報受発信事業	FC事業重複	きめこまやかな自然情報の受発信・使いやすい施設	自然情報発信ボードの設置管理・来訪者からの自然情報管理・自然愛好団体ニーズ調査	関心ある人自然愛好家	2,000人/年			親たちが自主的に子どもの自然体験教室を開催している	
		館内ちびっこ体験推進事業		館内での体験(クラフト・読み聞かせ・生きものタッチ等)を通して自然に親しみ学ぶきっかけをつくる	クラフト等体験コーナーの設置管理運営・ちびっこ親子のニーズ調査	小学生幼児親子	500人/年			地元住民が観光ボランティアとして活躍している	
		地元のみなさん来てください！事業		地元住民が集いボランティア活動や情報提供等に動じる	ボランティア活動メニューの管理運営・地元のニーズ調査	地元住民	500/年			特色ある様々な企画が展開	
		講座・教室・ワークショップ・フェスティバル開催事業	FC事業重複	貴重性の訴求・保全意識の醸成・自然情報の受発信	各レベル・ニーズに応じたイベントを開催。①石狩浜になじみのない人でも関心を持つきっかけになるイベント(はまなすフェスティバル・ナイトウォーク、子ども向け自然教室、フットバスウォーク、各種ワークショップなど) ②自然への興味の入り口に立つ人に対する講座(初心者観察会、カルチャートーク、キッズクラブ、各種ワークショップなど) ③知識・関心を深めたい人に対する講座(自然観察会、学習会など)	あらゆる世代	1,000人/年			大量の来訪者にきめ細やかに対応する館内ガイドが配置できている。	
		館内案内事業		石狩浜の貴重性の訴求・保全意識の醸成・自然情報の受発信・快適な雰囲気づくり	きめこまやかな来訪者対応・展示ガイドの作成・体験コーナーのサポート・施設利用団体サポート	あらゆる世代	館内ガイドボランティア 10名 館内案内満足度 100%			様々な団体と円滑な情報交流が行われ、市民活動がますます展開されている。	
		観察園整備活用事業		体験実感を通じた貴重性の訴求・植物に親しみ・植物の各種データの取得	こまめな雑草除去また植物移植・こまやかな案内板設置・こまやかなガイド	あらゆる世代	観察園ボランティア 10名 観察園利用満足度 100%			市内全校が石狩浜学習実習先。札幌圏からも多く来訪。	
	連絡調整	団体活動情報一元化事業		自然体験の場を多くの人に提供	様々な自然愛好団体が一般募集で行っている石狩浜のイベントや活動を集約して発信	活動団体・利用者				石狩浜のすばらしさと守る必要性を認識した若者が育ち何らかの形で保全活動に寄与する。	
		石狩浜活動団体との連絡調整	FC事業重複	情報の受発信・意見交換による円滑なセンター運営。自然体験活動団体等の多様な活用体制の拡充。	連絡会議の開催・フォーラムの開催・活動情報ボードの作成・	活動団体				常に新しい案内人が養成され活動に入ってくる	
	環境教育活動	環境教育推進事業	FC事業重複	石狩浜の貴重性の訴求・保全意識の醸成・自然情報の受発信	環境教育プログラムの企画運営・学校や環境教育活動団体への利用の誘い	小中学生	対応児童・子ども数 1500人/年			行政との協働関係を維持し、保護区が拡大し、バギー車乗り入れはなくなっている。	市内のハマナス農園と自生地のハマナスを巡る食と農と自然のコラボしたツアーが展開され、国内外から多くの観光客を集める。
		キッズクラブ	FC事業重複	親子で体験を通じて自然への理解や自然と調和したくらしの理解、石狩浜の自然の貴重性への理解を深めてもらう	年6回の子供向けプログラムを実施	親子・幼児～小学生	参加者数 100人/年				
	ボランティア育成	センター活動ボランティア育成事業		館内ガイドボランティア・観察園ガイドボランティア・環境教育推進ボランティアの育成	育成講座プログラムの作成・講座開催・連絡体制の構築・活動の場づくり	関心のある人	養成講座新規修了者数 10人/年				
調査保全	調査	自然情報の受発信	FC事業重複	保全に係る基礎情報把握	できる限り短期間に更新・情報管理体制の構築。ボランティアによる自然情報収集・発信活動のサポート。			行政との協働関係を維持し、保護区が拡大し、バギー車乗り入れはなくなっている。	市内のハマナス農園と自生地のハマナスを巡る食と農と自然のコラボしたツアーが展開され、国内外から多くの観光客を集める。		
		希少種生育生息情報の把握		保全に係る基礎情報把握	調査と情報管理						
		外来種生育生息状況の把握と対策		保全に係る基礎情報把握	市民および研究機関からの情報授受と管理・イベント通じた除去作業						
		地形変化の把握		保全に係る基礎情報把握	市民および研究機関からの情報授受と管理						
		植生消失及び回復状況の把握		保全に係る基礎情報把握	市民および研究機関からの情報授受と情報管理						
		海岸バトウォーク	FC協働	保護区外植生域への車乗り入れ状況把握と対策(海辺FC協働事業)	月1回、砂丘海側を巡り車乗り入れ状況の調査と必要に応じてロープによる乗り入れ防止対策	植生域への乗り入れ車両	三線浜まで植生域への車乗り入れゼロ				
	カントリーコード普及事業	FC協働	海岸利用者へのカントリーコードを周知による、植生保全および景観保全(海辺FC協働事業)	海岸利用期におけるカントリーコードパンフレットの配布等	レジャー利用者	三線浜まで植生域への車乗り入れゼロ レジャー後の放置ゴミ、減少				ビジターセンターの一部が、保護センターの出先としての機能を担い、複数のガイドが常駐し観光客を案内している。	
地域連携・地域づくり		はまなす再生プロジェクト		フェスティバル等を通じた貴重性の訴求 ハマナス再生園およびハマナスをいかした自然体験環境学習プログラムの実施 ハマナス活かした商品開発のサポート	①フェスティバル運営(普及啓発イベント開催事業と兼ねる) ②再生園管理整備活用(普及啓発観察園整備事業と兼ねる) ③関係企業団体との連絡調整						
		ビジターセンターでのPR		ビジターセンターでの自然情報の発信、はまなすの丘来訪者の保護センターへの誘導	2階展示パネルの充実。必要に応じてガイドの配置。						